

みずほマーケット・トピック(2014 年 7 月 25 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

※本日、東洋経済新報社様より拙著『欧州リスク: 日本化・円化・日銀化』が発売となります。もし宜しければお手に取って頂ければ幸いです。

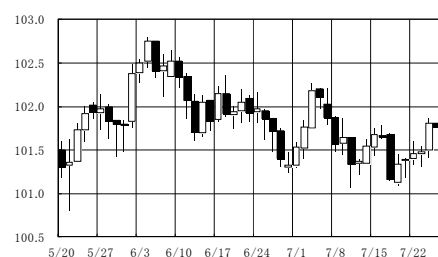
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は上昇。週初 21 日に 101 円台前半でオープンしたドル/円は、東京市場が休場となる中、新規材料に乏しく同水準で小動き。22 日は、米 6 月消費者物価指数(CPI)の発表を前に米金利が上昇し、ドル/円は 101 円台後半まで買われるも、発表されたコア CPI の市場予想を下回る結果を嫌気すると、101 円台前半まで反落。23 日もウクライナ情勢への懸念が煽る中、ドル/円の上値は重く、101 円台前半の狭いレンジで揉み合い推移が続いた。24 日にかけては、中国 7 月 PMI やユーロ圏 7 月 PMI の良好な結果が好感される中、米新規失業保険申請件数の約 8 年 5 か月ぶりとなる良好な結果も相俟って、ドル買いが強まり、ドル/円は一時週高値となる 101.86 円まで上昇した。本日にかけてのドル/円も前日からの流れを引き継いでおり、101 円台後半の高値圏で堅調な推移が継続している。
- ・今週のユーロ/ドル相場は下落する展開。週初 21 日に 1.35 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる 1.3549 まで上昇するも地政学リスクへの警戒からリスク回避ムードが強まる中、1.35 台前半で小動き。22 日は、米 6 月 CPI を控えて米金利が上昇する中、ユーロ/ドルは 1.34 台後半まで下落。米 6 月 CPI は予想をやや下回る弱い結果となったものの、ユーロの買い戻しは限定的なものに止まった。23 日も、ウクライナ情勢に絡んだ地政学リスクが意識される中、軟調地合いが続き、翌 24 日の欧州時間朝方には一時週安値となる 1.3438 まで下落した。その後発表されたユーロ圏 7 月 PMI の良好な結果にユーロ買いが強まると、ユーロ/ドルは一旦 1.34 台後半まで値を戻したが、NY 時間に入ると米新規失業保険申請件数の良好な結果を好感したドル買いに押され、再び弱含みに。本日もユーロ/ドルは 1.34 台後半で軟調に推移している。

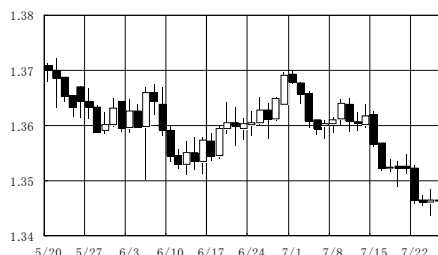
今週のおもな金融市場動向

		前週末	今 週				
		7/18(Fri)	7/21(Mon)	7/22(Tue)	7/23(Wed)	7/24(Thu)	
ドル/円	東京9:00	101.23	101.35	101.44	101.48	101.53	
	High	101.45	101.40	101.60	101.55	101.86	
	Low	101.09	101.19	101.33	101.32	101.42	
	NY 17:00	101.34	101.39	101.46	101.48	101.81	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.3518	1.3530	1.3522	1.3467	1.3462	
	High	1.3536	1.3549	1.3530	1.3474	1.3485	
	Low	1.3491	1.3513	1.3459	1.3455	1.3438	
	NY 17:00	1.3524	1.3523	1.3465	1.3464	1.3465	
ユーロ/円	東京9:00	136.81	137.13	137.18	136.66	136.67	
	High	137.29	137.13	137.34	136.76	137.19	
	Low	136.72	136.89	136.58	136.41	136.37	
	NY 17:00	137.35	137.12	136.62	136.63	137.07	
日経平均株価		15,215.71	-	15,343.28	15,328.56	15,284.42	
TOPIX		1,263.29	-	1,273.27	1,272.39	1,269.86	
NYダウ工業株30種平均		17,100.18	17,051.73	17,113.54	17,086.63	17,083.80	
NASDAQ		4,432.15	4,424.70	4,456.02	4,473.70	4,472.11	
日本10年債		0.55%	0.55%	0.54%	0.54%	0.53%	
米国10年債		2.48%	2.47%	2.46%	2.47%	2.50%	
原油価格(WTI)		103.13	104.69	102.39	103.12	102.01	
金(NY)		1,311.00	1,314.50	1,308.00	1,306.50	1,295.70	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・来週の米国では 29～30 日に開催される FOMC に加え、マーケットドライバーとなる重要指標が相次いで発表となる。FOMC では、これまで通り 100 億ドルの資産買い入れ規模縮小が決定されよう。声明文では良好な雇用統計の結果を反映して雇用情勢に関する現状判断の修正が注目されるが、今回はイエレン FRB 議長の記者会見が予定されておらず、出口戦略に関する議論も議事要旨の公開を待つ必要があることから、基本的には無風での通過を予想している。
- ・米経済指標では 30 日(水)の 4～6 月期 GDP(1 次速報)と 8 月 1 日(金)の 7 月雇用統計に注目。1～3 月期 GDP は歴史的な寒波の影響もあって前期比年率▲2.9%と景気後退期並みの弱い結果となった。4～6 月期について当初は前期の反動もあり同+4.0%程度の高成長を見る向きも多かったが、足許までに確認されているデータは、特に個人消費関連で精彩を欠いており、全体では同+3.0%程度の反発に留まりそうだ。一方、今回は年次改定により過去 3 年分が改定となる。仮に 1～3 月期の結果が上方修正されるようであれば、4～6 月期の結果以上に市場に影響を与える可能性もあり注意が必要だろう(尚、今回は上記の年次改定に加え、国際取引勘定の変更等に伴い、1999 年 1～3 月期以降のデータに修正が加えられる)。
- ・7 月雇用統計は非農業部門雇用者数が前月比+22.5 万人、失業率が 6.1%と前月に引き続き良好な結果が見込まれている。週次の失業保険統計等の関連指標は依然として好調なものが多いほか、7 月 16 日に公表されたベージュブックでは全 12 地区にて雇用の増加が報告されるなど、労働市場は引き続き改善基調にあり、7 月分も 20 万人を超える結果が期待できそうだ。但し、市場への影響の観点では月次の雇用増加幅の重要性は低下しており、同統計中の平均時給等の上振れが伴わない限り、ドルの押し上げ効果は限定的だろう。賃金・物価関連の指標ではこの他、同日に発表される 6 月個人所得及び個人消費支出(PCE)デフレーター、前日 31 日(水)の 4～6 月期雇用コスト指数が重要である。
- ・本邦では 4～6 月期 GDP との関係から 29 日(火)の 6 月家計調査(全世帯実質消費支出)、30 日(水)の 6 月鉱工業生産に注目したい。前回 5 月の実質消費は前年比▲8.0%と市場予想の同▲2.3%を大幅に下回った。市場では消費増税後の反動が想定より大きいとの見方が広まったが、同指標は単月の振れが大きいため、6 月分で反発が見られるかどうかが焦点となる。他方、鉱工業生産は 4 月の前月比▲2.8%減の後、5 月に同+0.7%増と小幅に反発した。生産予測調査によれば 6 月分は同▲0.7%の減産となっているが、これを下回るようだと、個人消費の反動減も含めて、4～6 月期 GDP(ESPフォーキャスト調査予想:前期比年率▲4.90%)の下振れリスクが高まる。

	本 邦	海 外
7 月 25 日(金)	-----	・米 6 月耐久財受注
28 日(月)	-----	-----
29 日(火)	・6 月家計調査 ・6 月労働力調査 ・6 月商業販売統計	・米 FOMC(～30 日) ・米 7 月消費者信頼感指数 ・米 5 月 S&P/ケース・シラー住宅価格
30 日(水)	・6 月鉱工業生産(速報)	・米 7 月 ADP 雇用統計 ・米 4～6 月期 GDP(事前推定値)
31 日(木)	・6 月新設住宅着工	・米 4～6 月期雇用コスト ・米 7 月シカゴ購買部協会景気指数
8 月 1 日(金)	・7 月自動車販売台数	・米 7 月雇用統計 ・米 6 月個人所得・消費 ・米 7 月 ISM 製造業景気指数

【当面の主要行事日程(2014 年 8 月～)】

欧州中銀理事会(8 月 7 日、9 月 4 日、10 月 2 日)
 日銀金融政策決定会合(8 月 7～8 日、9 月 3～4 日、10 月 6～7 日)
 米 FOMC(9 月 16～17 日、10 月 28～29 日、12 月 16～17 日)
 G20 財務相・中央銀行総裁会議(9 月 20～21 日、ケアンズ)

以 上

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

2014年7月の予定

日	月	火	水	木	金	土
6/29	6/30 5月鉱工業生産(速報) 5月新設住宅着工 米6月シカゴPMI	7/1 日銀短観(6月調査) 6月自動車販売台数 米6月ISM製造業 景気指数 米5月建設支出	2 6月マネタリーベース 米5月製造業新規受注 米6月ADP雇用統計	3 米6月雇用統計 米5月貿易収支 米6月ISM非製造業 景気指数 ECB理事会 (フランクフルト)	4 米独立記念日	5
6	7 5月景気動向指数(速報) ユーロ圏財務相会合 (ブリュッセル)	8 5月国際収支 6月貸出・預金動向 6月景気ウォッチャー調査 6月企業倒産件数 米5月消費者信用残高 EU経済・財務相理事会 (ブリュッセル)	9 6月マネーストック FOMC議事要旨	10 6月企業物価 5月第三次産業活動指数 5月機械受注 米5月卸売売上高	11 米6月財政収支	12
13	14 日銀金融政策決定会合 ・展望レポート(～15日) 5月鉱工業生産(確報)	15 米6月小売売上高 米7月ニューヨーク連銀 製造業景気指数 米5月企業在庫	16 金融経済月報 米6月生産者物価 米6月鉱工業生産 米5月TICレポート (対内対外証券投資) 米地区連銀経済報告 (米ページブック)	17 月例経済報告 米6月住宅着工 米7月フィラデルフィア 連銀製造業景気指数	18 日銀金融政策 決定会合議事要旨 米7月ミシガン大学消費 者マインド指数(速報) 米6月景気先行指数	19
20	21 海の日	22 4月景気動向指数(確報) 米6月消費者物価 米6月中古住宅販売	23	24 6月貿易統計 米6月新築住宅販売	25 7月東京都区部/ 6月全国消費者物価 6月企業向けサービス 価格 米6月耐久財受注	26

(注) 2014年7月25日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。なお、(*)を付したものは未定のものであることを表します。

27	28	29 6月家計調査 6月労働力調査 6月商業販売統計 米FOMC(～30日) 米7月消費者信頼感指数 米5月S&P/ケース・ シラー住宅価格	30 6月鉱工業生産(速報) 米7月ADP雇用統計 米4～6月期GDP (事前推定値)	31 6月新設住宅着工 米4～6月期雇用コスト 米7月シカゴPMI	8/1 7月自動車販売台数 米7月雇用統計 米6月建設支出 米7月ミシガン大学消費 者マインド指数(確報) 米6月個人所得・消費 米7月ISM製造業 景気指数	8/2
----	----	---	---	--	---	-----

(注) 2014年7月25日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。なお、(*)を付したものは未定のものであることを表します。

2014年8月の予定

日	月	火	水	木	金	土
7/27	7/28	7/29 6月家計調査 6月労働力調査 6月商業販売統計 米FOMC(～30日) 米7月消費者信頼感指数 米5月S&P/ケース・ シラー住宅価格	7/30 6月鉱工業生産(速報) 米7月ADP雇用統計 米4～6月期GDP (事前推定値)	7/31 6月新設住宅着工 米4～6月期雇用コスト 米7月シカゴPMI	8/1 7月自動車販売台数 米7月雇用統計 米6月建設支出 米7月ミシガン大学消費 者マインド指数(確報) 米6月個人所得・消費 米7月ISM製造業 景気指数	2
3	4 7月マネタリーベース	5 米7月ISM非製造業 景気指数 米6月製造業新規受注	6 6月景気動向指数(速報) 米6月貿易収支	7 日銀金融政策決定会合 (～8日) 米6月消費者信用残高 ECB理事会 (フランクフルト)	8 6月国際収支 7月貸出・預金動向 7月景気ウォッチャー 調査 7月企業倒産件数 米6月卸売売上高 米4～6月期労働生産性 (速報)	9
10	11 金融経済月報 7月マネーストック 6月第三次産業活動指数	12 7月企業物価 6月鉱工業生産(確報) 米7月財政収支	13 日銀金融政策 決定会合議事要旨 4～6月期GDP(1次速報) 米6月企業在庫 米7月小売売上高	14 6月機械受注	15 米8月ミシガン大学消費者 マインド指数(速報) 米8月ニューヨーク連銀 製造業景気指数 米6月TICレポート (対内対外証券投資) 米7月生産者物価 米7月鉱工業生産	16
17	18 *月例経済報告	19 6月景気動向指数(確報) 米7月住宅着工 米7月消費者物価	20 7月貿易統計 FOMC議事要旨	21 米7月景気先行指数 米7月中古住宅販売 8月フィラデルフィア 連銀製造業景気指数	22	23

(注) 2014年7月25日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。なお、(*)を付したものは未定のものであることを表します。

24/31	25 米7月新築住宅販売	26 7月企業向けサービス 価格 米7月耐久財受注 米6月S&P/ケース・ シラー住宅価格 米8月消費者信頼感指数	27	28 米4～6月期GDP (暫定推定値)	29 7月労働力調査 7月鉱工業生産(速報) 7月商業販売統計 7月家計調査 8月東京都区部/ 7月全国消費者物価 7月新設住宅着工 米8月ミシガン大学消費者 マインド指数(確報) 米8月シカゴPMI 米7月個人所得・消費	30
-------	-----------------	---	----	----------------------------	--	----

(注) 2014年7月25日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。なお、(*)を付したものは未定のものであることを表します。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/esgn.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年7月24日	本邦6月貿易収支について
2014年7月23日	米消費者物価指数(GPI)を受けて考える為替相場
2014年7月22日	格差が出始めたユーロ圏住宅価格～BIS年次報告に絡めて～
2014年7月18日	週末版「事故的なイベント」は押し目の好機～狭いレンジでの処世術～
2014年7月17日	『展望レポート』中間評価などについて
2014年7月15日	円相場は損益分岐点か？～『さくらレポート』などを受けて～
2014年7月14日	FRB、「今の利上げ」は「将来の利下げ」のため？
2014年7月11日	週末版(ポルトガルの銀行不安を受けて～金融不安は日本化懸念のダメ押し～)
2014年7月10日	巨額和解騒動から派生する決済通貨の多様化論
2014年7月8日	国際収支や対内対外証券投資などから得られる需給イメージ
2014年7月7日	「生活意識に関するアンケート調査」に見る日本経済の現状
2014年7月4日	週末版(ECB理事会を終えて～市場期待に苛立つドラギ総裁は日銀を思い返すべき～)
2014年7月2日	フィリップス曲線にみるユーロ圏の構造変化
2014年7月1日	ECB理事会プレビュー～QEを仄めかしつつ現状維持～
2014年6月27日	週末版「動かない相場」は企業の想定通り？～ブラザ合意以降で最小の月間レンジに～
2014年6月26日	14年前半の終わりを前に～史上最小レンジが視野に～
2014年6月24日	強まった「デフレの足音」～ユーロ圏労働コストなどについて～
2014年6月23日	ユーロ圏貿易収支などについて～縮小均衡？～
2014年6月20日	週末版(実質金利からみる最近の為替相場～ユーロに買い安心感、円に売り安心感～)
2014年6月19日	FOMCを終えて～アップサイドリスクを考える時？～
2014年6月18日	ユーロシステムの流動性と欧米中銀のバランスシート比較
2014年6月17日	成長戦略素案について～雇用規制はあらゆる問題の遠因～
2014年6月16日	麻生財務相発言と「蓄積する現預金」について
2014年6月13日	週末版(オバマ米大統領の空爆示唆から思索する為替相場への影響)
2014年6月12日	今の日本は本当に人手不足か？
2014年6月11日	第二次ユーロフォリア？
2014年6月10日	進行するユーロ圏の日本化現象～金利・為替の現状から～
2014年6月9日	ECBIにまつわる3つの「分かり難さ」
2014年6月6日	週末版(ECB理事会を終えて～「百害あって一利なし」のマイナス金利導入～)
2014年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)などについて
2014年6月2日	ECB理事会プレビュー～プラスアルファの読み方～
2014年5月30日	週末版
2014年5月28日	2013年末対外資産・負債残高～過去最大の対外純資産に～
2014年5月27日	「5・23」ショックから1年で思うこと～「懸せる」政策は限界に～
2014年5月26日	労働時間規制について～「第三の矢」の担う雇用規制改革～
2014年5月23日	週末版(過去最大の中期債取得とユーロ債動向～順調に織り込まれるECBへの期待～)
2014年5月22日	日銀金融政策決定会合～緩和は「やるも地獄、やらぬも地獄」か～
2014年5月21日	IMF、対ドイツ第4条協議について～財政出動はもはや義務～
2014年5月20日	出生率目標設定も雇用規制緩和に通ず
2014年5月19日	ドルはどうして上がらないのか？～需給面からの解説～
2014年5月16日	週末版(ユーロ圏1～3月期GDPIについて～6月緩和は既定路線に～)
2014年5月15日	欧州議会選挙プレビュー～「真の危機」はブリュッセルにあらず～
2014年5月13日	米金利低下の背景～むしろ間違っているのは米株か？～
2014年5月12日	13年度国際収支統計～強まる「成熟した債権国」の傾向～
2014年5月9日	週末版(ECB理事会を終えて～賽は投げられた。始まる為替市場との心理戦～)
2014年5月8日	イエレンFRB議長議会証言について～利上げ観測の牽制～
2014年5月7日	ECB理事会プレビュー～無駄打ちを避け現状維持～
2014年5月2日	週末版(下振れるユーロ圏のインフレ期待などについて～マイナス圏へ沈むイタリア、スペイン～)
2014年5月1日	日銀金融政策決定会合や「展望レポート」を受けて
2014年4月25日	週末版(南欧債の金利低下をもたらす3つの要因～国債管理体制に組み込まれるユーロシステム～)
2014年4月23日	オーストラリア経済や豪ドル相場は持続可能なのか？
2014年4月21日	円キャリー取引を巡る環境について
2014年4月18日	週末版(日米欧の物価比較～PPIではもうデフレ。鮮明になってきたユーロ圏の劣後～)
2014年4月17日	完全雇用の背後にあるもの～賃上げ犠牲の果てに～
2014年4月16日	米為替政策報告書～滲み出るドイツ及びユーロ圏への不満～
2014年4月15日	説得力に欠けるユーロ高牽制～通貨政策への傾斜を考える～
2014年4月14日	アベノミクスを巡る国内外の温度差～豪州出張を終えて～
2014年4月11日	週末版
2014年4月7日	ECB版QEについて～14年4月3日は日銀化記念日～
2014年4月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「限りなく緩和に近い現状維持」。市場期待は臨界点へ～)
2014年4月3日	物価上昇は価格転嫁と賃金上昇が求められるステージへ
2014年4月2日	外貨準備構成通貨の内訳～ユーロ比率はボトムアウト？～
2014年4月1日	ECB理事会プレビュー～マジックを見せるなら今～
2014年3月28日	週末版(ユーロ圏M3や民間向け貸出について～貸出減少は本当年に年内までか？～)
2014年3月26日	本邦10～12月期資金循環統計～際立つリスク性資産の伸び～
2014年3月25日	遂に動き出す欧州銀行同盟～不安を抱えながらの船出～
2014年3月24日	拡大する日米経常収支格差～対照的な日米需給動向～
2014年3月20日	週末版(FOMCを終えて～金利差が幅を利かせるのは14年後半から15年初か～)
2014年3月14日	週末版
2014年3月11日	今一度整理する経常収支の意味～「稼ぐ力」の誤解～
2014年3月10日	本邦1月国際収支などについて～年度赤字転落が視野に～
2014年3月7日	週末版(ECB理事会を終えて～予想外の「手ぶら」、完全なるゼロ回答を決定～)
2014年3月6日	最近の証券投資動向～スタートダッシュに躍いた日本株～
2014年3月4日	ウクライナ情勢がEU&ユーロ圏へもたらす影響などについて
2014年3月3日	ECB理事会プレビュー～「手ぶら」は想定し得ない情勢～
2014年2月28日	週末版
2014年2月26日	欧州委員会冬季経済予測を受けて～デフレの分析～
2014年2月25日	佳境を迎えるECBの情報収集～プレ・プレビュー～
2014年2月24日	G20財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年2月21日	ユーロ圏消費者信頼感指数やGDP稼働率、設備投資などについて
2014年2月20日	相次ぐユーロ高牽制の読み方～高コスト温存の代償として～
2014年2月19日	日本化を否定する独連銀理事講演の読み方
2014年2月18日	本邦10～12月期GDP統計に見る「実感なき景気回復」
2014年2月14日	週末版(ユーロ圏にとって期待インフレ率とは何か？～各種指標でみるユーロ圏の期待インフレ～)
2014年2月13日	混迷度を深めるECB政策運営～マイナス金利報道を受けて～
2014年2月10日	基礎的需給などで見る円相場～2013年国際収支を受けて～
2014年2月7日	週末版(ECB理事会を終えて～現状維持というよりも緩和先送り～)
2014年2月6日	「リスク回避のユーロ買い」の考察～「資本流出への防波堤」～
2014年2月5日	円安と株高の出自は違う～最近の為替・株式相場について～
2014年2月4日	ECB理事会プレビュー～3つの要素で判断する「次の一手」～
2014年2月3日	ユーロ圏、ソフトとハードの間に生じる「ねじれ」をどう考えるか
2014年1月31日	週末版
2014年1月30日	欧州系銀行の新興国向けエクスポージャーなどについて
2014年1月28日	最近の日経平均株価の下落などについて